

冷凍機付衝撃試験機 型式DG-40

Temperature-Controlled Impact tester

用 途

プラスチックの衝撃試験を恒温槽内で行う装置で、シャルピー衝撃、アイゾット衝撃、テンサイル衝撃(インベースのみ)、衝撃剥離(特型対応)の試験片を恒温槽内に置き、温度を変えて試験ができます。



特 長

- -40°C ~ $+40^{\circ}\text{C}$ の恒温槽内に試験片を置き試験します。
- シャルピー衝撃、アイゾット衝撃、テンサイル衝撃(インベースのみ)、衝撃剥離試験(特型対応)のハンマー及び試験片支持台を交換することにより、各種の衝撃試験ができます。
- アイゾット衝撃試験の試験片取付は、エア-締め付けです。エア-圧を変更することにより、締め付け圧力を変更できます。
- 試験方法は半自動で、上部扉の開→ハンマー落下は自動で行い、ハンマー持ち上げは手動です。個人差がでる動作は自動なので、データ-のバラツキは少なくなります。
- 試験片の交換は手動です。槽内で一定温度になっている試験片を、グローブボックスから手を入れ交換します。

仕 様

1. 冷却方式

温度範囲	: -40℃～+40℃
温度分布	: -40℃に於いて±2℃（チャックを取り付けた状態で試験片近辺と温調器との差）
温度降下時間	: 25℃→-40℃ 約70分 (但し、冷却水温度+10℃～+30℃、室温+10℃～+30℃、湿度35～60%RHのとき)
制御方法	: 冷凍機ON連続、ヒータON-OFFによるPID制御
冷凍機	: -40℃～+40℃ 一元冷凍方式、水冷(又は空冷)、冷媒R404a
ヒーター	: 4.5kW

2. 試験方法

- 試験方法の変更は、ハンマー及び試験片支持台を交換して行います。
- シャルピー衝撃試験 JIS K 7111-1、ISO 179-1、ASTM D6110、ISO 13802
秤量0.5～15J仕様によります。
- アイゾット衝撃試験 JIS K 7110、ISO 180、ASTM D 256、ISO 13802
秤量0.5～22J仕様によります。
- テンサイル衝撃試験 JIS K 7160、ISO 8256、ISO 13802
秤量2～15J仕様によります。但しインヘッドタイプ(B法)は不可
- 衝撃剥離試験(特型対応) JIS K 6855 も試験できます。
秤量2.75～22J仕様によります。

3. 電 源

3相 AC200V 30A 50/60Hz

4. 内槽寸法

約W900×D200×H400mm

5. 機体寸法

約W1300×D1200×H1600mm

6. 質 量

約600kg

7. エアースource

・動作用 エアースource圧力:約0.5MPa、エアースource量:約50L/min(ANR)

8. 冷却水

水温: +10℃～+30℃、水量:約30L/min 純度・水圧: 水道水程度

9. オプション

- 小型プリンター 型式PS-A1
データ処理装置 型式CON
試験片飛散防止枠 型式SC

www.toyoseiki.co.jp

2022.07

材料試験機の総合メーカー

 株式会社 東洋精機 製作所

本社・東京支店 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4 TEL 03-3916-8181 FAX 03-3916-8173
大阪支店 〒564-0044 大阪府吹田市南金田2-14-35(中央社ビル) TEL 06-6386-2851 FAX 06-6330-7438
名古屋支店 〒461-0003 名古屋市東区筒井3-30-12(森ビル別館) TEL 052-933-0491 FAX 052-933-0591

●記載内容は改良のため変更することがあります。